

4月14日 聖金曜日

最も偉大な愛

ヨハネによる福音書 18章1節～19章42節

¹ こう話し終わると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロンの谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。² イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集まっておられたからである。³ それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって来た。松明やともし火や武器を手にしていた。⁴ イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。⁵ 彼らが「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「わたしである」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒にいた。⁶ イエスが「わたしである」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。⁷ そこで、イエスが「だれを捜しているのか」と重ねてお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。⁸ すると、イエスは言われた。「『わたしである』と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。」⁹ それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言われたイエスの言葉が実現するためであった。¹⁰ シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とす。手下の名はマルコスであった。¹¹ イエスはペトロに言われた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

¹² そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、¹³ まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアフアのしゅうとだったからである。¹⁴ 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアフアであった。

¹⁵ シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、¹⁶ ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。¹⁷ 門番の女中はペトロに言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、「違う」と言った。¹⁸ 僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

¹⁹ 大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。²⁰ イエスは答えられた。「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。²¹ なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」²² イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、イエスを平手で打った。²³ イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」²⁴ アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアフアのもとに送った。

²⁵ シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、ペトロは打ち消して、「違う」と言った。²⁶ 大祭司の僕で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」²⁷ ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

²⁸人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。²⁹そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。³⁰彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。³¹ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。³²それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。³³そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。³⁴イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」³⁵ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」³⁶イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」³⁷そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」³⁸ピラトは言った。「真理とは何か。」

ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。³⁹ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」⁴⁰すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

¹そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。²兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまといせ、³そばにやって来ては、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。⁴ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」⁵イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。⁶祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架につける。十字架につける」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」⁷ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」

⁸ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、⁹再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。¹⁰そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」¹¹イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」¹²そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」

¹³ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。¹⁴それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、¹⁵彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につける。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかに王はありません」と答えた。¹⁶そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

こうして、彼らはイエスを引き取った。¹⁷イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべ

の場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。¹⁸そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。¹⁹ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。²⁰イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。²¹ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください』と言った。²²しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

²³兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。²⁴そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、

「彼らはわたしの服を分け合い、
わたしの衣服のことでくじを引いた」

という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。²⁵イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。²⁶イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。²⁷それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

²⁸この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。²⁹そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。³⁰イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引取られた。

³¹その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。³²そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。³³イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。³⁴しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。³⁵それを目撃した者が証しており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。³⁶これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。³⁷また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。

³⁸その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。³⁹そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。⁴⁰彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。⁴¹イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。⁴²その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。

他の朗読：イザヤ 52:13～53:12 詩編 31:2, 6, 12, 13, 15～17, 25 ヘブライ 4:14～16, 5:7～9

ヨハネによる福音書のイエスの受難の記述は、裏切りと夜の逮捕で始まります。ユダはローマ兵たちと神殿の下役たちを、イエスが弟子たちとしばしば会っていた庭へ案内します。しかしヨハネは、イエスは予期せず連れ去られるのではないし、逮捕を避けようともしていないことを、以下の記述によって明確にさせています。「イエスは御自分の身に起こることは何もかも知っておられ、進み出て…」(18章4節)

イエスは、アンナスと大祭司カイアファの前に連れてこられます。ヨハネは、ユダヤ人たちの前でイエスの裁判について、他の福音書記者ほど詳細には示しません(マタイ26章57～68節、マルコ14章53～65節、ルカ22章54、55、63～71節参照)。しかし「一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だ」(18章14節)とユダヤ人たちに助言したのは、このカイアファであったと書いています。

ユダヤ人たちは判決を言い渡しますが、それを実行するためにはローマ総督の許可が必要です。そこで彼らはイエスを総督ピラトのところに連れて行きますが、ピラトにはイエスを死刑にする理由が見出せません。事実、ピラトはこのことを人々に少なくとも3回宣言しています(18章38節、19章4、6節)。そしてイエスを釈放しようとしています。しかし、群衆のほうが公然とピラトに皇帝への忠誠を求めると、彼はあきらめてイエスを十字架につけるために引き渡します。

ヨハネによる福音書には、他の3つの福音書にないいくつかの記述があります。そのうちの1つは、十字架上のイエスが「彼が愛した弟子」に、母の面倒を見るようにと指示したことです。「彼が愛した弟子」とは伝統的にヨハネ自身のことだとされています(ヨハネ19章26、27節)。ヨハネだけがイエスの優しい言葉と母への気遣いを記録しています。

他の福音書にはない記述のもう1つは、一緒に十字架に架けられた他の2人のようにイエスの脚を折らず、その代わり槍でイエスのわき腹を突き刺した兵士についての描写です(19章32～34節)。ヨハネは、ゼカリヤ12章10節に言及して「これは聖書の言葉が実現するためであった」と説明しています。

私たちはまた、イエスのわき腹が突き刺されたときに「血と水とが溢れ出た」ということを学びました。実際、このことは、イエスが死んでいたという決定的な証拠で、イエスは本当は死んでいなかったという説を論拠に後にイエスの復活を否定しようとする懐疑論者に答えているのです。また、象徴として、この血と水とは聖体または聖体拝領と洗礼を表わすという人もいます。

イエスが十字架に架けられた後で、アリマタヤ出身のヨセフが、イエスを埋葬してよいかどうかをピラトに尋ねます。ピラトは許しを与え、ヨセフは、ニコデモと一緒に埋葬のためにイエスの体に準備を施します(19章38～40節)。彼らは2人ともユダヤ議会の議員であり、イエスの密かな弟子でした。ここでニコデモの関わりについて言及している福音書記者はヨハネだけです。彼はまた、イエスとニコデモの出会いについてもヨハネ3章で記録しています。この3章に、聖書の中で最も有名な言葉、3章16節も含まれています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

Meditatio …黙想する

この受難物語から、イエスについて私たちは何を学べるでしょうか。何があなたの心に一番響くでしょうか。そしてそれはなぜですか。

イエスはピラトに答えて「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く」(18章37節)と言います。イエスが語る「真理」とは何でしょうか。あなたはいまもイエスに耳を傾けているでしょうか。

イエスは十字架上で死の苦しみと辱めに耐えました。このことは、あなたの生き方にどんな影響を生じさせるでしょうか。

イエスが「成し遂げられた」と言ったとき、何を意味したのでしょうか。今日、あなたにとってこの出来事はどんな意味を持ちますか。

Oratio …祈る

イザヤ 52 章 13 節～53 章 12 節を祈りのうちに読んでみましょう。私たちの咎のために刺し貫かれ、私たちの罪のために打ち砕かれた受難の僕を賛美しましょう。あなたのためにイエスが十字架上で成し遂げてくださった全てのことに感謝しましょう。あなたが自由になれるように代償を支払った愛情に満ちた主に、あなたの重荷と罪を明け渡しましょう。

Contemplatio …観想する

「だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。」(ヘブライ 4 章 16 節)

ヘブライ 4 章 14～16、5 章 7～9 節を読みましょう。これらの節は私たちが信仰をしっかりと保つ(4 章 14 節) ために勇気を与え、また強めてくれます。

私たちの人間の弱さを理解し、この世に罪なくして住まわれ、そして「御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源」(5 章 9 節) である大祭司イエスについて黙想してみましょう。